

第2回放射線管理士セミナー開催報告

西山 雄治 神奈川県放射線管理士部会 (公立大学法人横浜市立大学附属病院)

宮城県放射線技師会、神奈川県放射線管理士部会が主催、神奈川県放射線技師会、全国放射線管理士部会が共催する第2回放射線管理士セミナーを平成22年11月20日(土)に宮城県の独立行政法人国立病院機構仙台医療センターで開催致しました。

本セミナーは、11:30より緊急被ばく医療2次施設である仙台医療センターの施設見学からはじまりその後プログラム5部構成で17:30終了予定を超過して、開催致しました。

プログラム1.「文藝春秋「CT検査でがんになる」を考える」と題しまして、仙台通信病院の村井均先生からご講演いただきました。日本放射線技師会でも会員向けに技師会の見解が出されるなど、日々の放射線診療への影響をふまえたトピックス内容でした。

プログラム2.「スクリーニング講習(神奈川県放射線管理士部会)」と題しまして、①「サーベイメーターの特徴と用い方の実際」の講義を行い、その後に②「3分間サーベイ、模擬演習」にて、実際のサーベイメーターと模擬線源を用いて、災害時のサーベイを演習しました。3分間サーベイとは、避難所等で多くのひとのサーベイを行うことを目的に、汚染あり・なしを短時間に効率的に判別するために考案された方法です。災害時のサーベイの実践的な方法だと思います。

プログラム3.「カウンセリング講習(宮城県放射線管理被ばく対策委員会放射線管理士班)」と題しまして、①「原子力災害時における被ばくカウンセリングの特徴と対応」の講義を行い、その後に②「被ばくカウンセリングを体験する」にて、5、6名で一班になる班分けを行い、観察者・相談者・説明者の役割を交代で体験する演習を行いました。同じ相談内容でも班ごとでカウンセリング状況が異なり、災害時を想定した良い演習になりました。

プログラム4.「講演 日本史上初の緊急医療に携わった放射線技師」と題しまして、仙台医療センター(元国立水戸病院放射線科)の池田剛先生にご講演いただきました。1999年9月30日東海村のJCO・ウラン加工施設転換試験棟で発生した臨界事故の緊急被ばく医療の経験を、当時の対応方法をふり返るとともに以後、我が国における緊急被ばく医療のあり方に大きな影響を与えた考察を交えた内容でした。参加者の方から、当時はじめて患者に接した時の印象について質問されると、「何が起きたのか情報がほとんどないまま運ばれてきた患者から、サーベイメーター針が振り切れる線量が検出される…」といった当時の緊迫した救急医療の現場をととても感じることができました。

プログラム5.「シンポジウム 放射線災害時において放射線管理士の活動は…」と題しまして、①「宮城県における放射線管理士活動の現状と活動方針(宮城県放射線管理被ばく対策委員会)」②「神奈川県における放射線管理士活動の現状と活動方針(神奈川県放射線管理士部会)」③「全国放射線管理士部会の役割と活動方針(全国管理士部会)」と、それぞれの現状や役割、活動方針の報告ののち、各県や全国の放射線管理士の活動方針や発展について活発な質問や意見交換が行われました。

北海道で開催しました第1回に引き続き、宮城県での第2回の放射線管理士セミナーも無事にそして成功裏に開催できました。しかし、より精力的に放射線管理士の活動活発に向けて今後も、県内にとどまらず全国各地で開催し、参加者の皆さまの日々の放射線管理業務に役立つ企画と活発な交流や意見交換を行いたいと思っています。聞いてみたい講演、演習したい内容、企画、講師等ご意見・ご要望がございましたら、ご連絡いただけたら幸いです。